

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600033		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム 杵が森		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町字稲荷塚127		
自己評価作成日	平成31年1月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成31年1月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に安心して笑顔で生活して頂くために、利用者様の状態を毎日の申し送り時に確認している。変化が有ればすぐに情報を共有し、迅速な対応が出来るように心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は利用者サービスの向上について情報を共有し、目的意識を共有している。ボランティアの受け入れを充実するため、職員の提案と人間関係を積極的に活かし、マジック愛好会やオカリナの会などの団体に働きかけ、受け入れ団体数を増やしている。地域との交流を活発にするだけでなく、利用者の生活に笑いや楽しい時間を通して潤いをもたらしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の気持ちを尊重し、笑顔で元気に過ごしていただけるよう関わりを深める」という理念を職員全員で共有し、実践できるよう努めている。	利用者支援を目的とした理念を毎年、職員全員で検討を行い、見直しをしている。毎月の職員会議や毎朝の申し送りの中でサービスが出来ているかどうかを話し合い、確認している。利用者一人ひとりの状況について検討することで実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をして利用者様が笑顔で元気に暮らせるように、また、地域の方やご家族様に施設の行事に参加して頂けるよう声掛けし、関係性が継続できるよう努めている。	事業所活動を内容とした広報紙を発行し、事業所を理解してもらえるように取り組んでいる。絵本の読み聞かせやオカリナ演奏など多くのボランティアを受け入れ、歳の神や御田植祭など地域主催の行事に参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員として、自治会長、民生委員、家族代表や地域包括支援センターの方に参加して頂き、ホームの利用者様の状況や認知症について現状をお話して、認知症についての理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状を報告し、問題点や困っている事について意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	会議の中でリクレーションに力を入れたい事を相談し、町のゲーム用品貸し出し事業がある事を教えて頂き、利用し、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情をお話するとともに、分からない事がある時は相談に伺い意見や助言を頂いている。	事業所発行の広報紙を届け、近況を報告するなど日常的に交流している。空室発生時に利用者の紹介をお願いし、関係機関や関係者に呼びかけ、紹介されたり、入居待機者確保に繋がるなど良好な連携を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会に出席し事業所内で伝達している。3ヵ月ごとに事業所内で、身体拘束廃止委員会を開催し、話し合いの場を設けている。	研修会の内容を報告し、職員全員で共有している。職員会議などで何が身体拘束になるかを話し合っている。特に日常的に使用する言葉やベッド柵の使用方法について学び、身体拘束をしないケアに繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するなど、施設内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。又職員一人一人の精神面も考え、お互いに声を掛け合いケアをしていくことで虐待へとつながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいらっしゃらないが、研修会等で勉強する機会を持ち職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分説明し理解や納得して頂いた上で契約を結んでいる。契約後も話しやすい環境を作り、疑問点や不安等に対して、常に相談に応じれるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ごとに担当の職員がおり、利用者様やご家族様がいつでも要望や意見を出しやすいようにしている。又、家族が面会に来られた時は、要望等がないか話を伺うよう努めている。	利用者は直接、家族からは来訪時に意見や要望を聞いている。家族から母親に毎日、折り紙させて欲しいと要望され、通常のレクリエーション活動とは別に、毎日午後、昼寝と入浴の合間に折り鶴を折っていただくように支援等、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回及び利用者様の状態に変化が出た時に職員会議を開き、職員の意見や提案を聞き運営に反映している。又、法人理事長や施設長等も月に何度か訪問し、施設の状態確認や相談等を聞く機会を作っている。	管理者は毎月の職員会議や日々の活動の中で職員から意見を聞く機会がある。食事が進み体重増加で歩行に影響が出る恐れのある利用者には、体重や主食量の測定を導入し、食べ過ぎと体重増加を防止して健康維持を図るなど積極的に職員意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は出来る限り現場に出向き、利用者様や職員とのコミュニケーションに努めている。又、常に職場環境に目を向け現場の状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の内部研修や外部研修にも参加し技術の向上に努めている。又、必要に応じてホームで勉強会を開き職員全員で理解できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人事交流や内部研修等を通じて職員同士の交流や情報交換を行いサービスの向上への取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様の自宅を訪問し、事前にご本人、ご家族様に管理者や介護支援専門員から生活の状況等について伺い、要望や不安な点についても確認したことをサービスに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の際に困っている事や不安な点について要望を聞くようにしている。又、入所後もご家族様と定期的にお話する機会をつくり、その都度困っている事について相談できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの相談時にご本人様とご家族様の状況、希望等を勘案して入所時のニーズを見極め、適切なサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活において、出来る事はご利用者様に伺いながら協力して頂けるよう努めている。又、利用者様の状態等を見守りながら支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の日頃の様子等についてご家族様に定期的に文章や電話、来訪時に報告している。問題等がある場合はご家族の意見を聞き相談しながらケアを行うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っているかかりつけ医へ引き続き受診できるように支援し、馴染みの関係が継続できるよう配慮している。又、昔からお付き合いがある馴染みの方とお話する機会を作り関係が途切れないよう努めている。	友人が来訪の折りは居室や家族室に案内し、くつろげるようにお茶を出している。帰りの時は再訪をお願いしている。一時帰宅やなじみの美容室には家族や事業所が送迎したり、美容院が出張して対応するなど関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性、個人の性格、認知症の状態を考慮し、食事等の席の場所など工夫している。ご利用者同士トラブルになりそうな時は、職員が間に入り良好な関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院によって退所になったご利用者様について、ご家族様に病状等について確認し、その後も相談や支援が出来ることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や定期的にご本人様から希望や意向の把握に努めている。又、困難な場合は、ご家族様とも相談し、可能な限り望む生活の援助を行っている。	利用者は現在、自分の思いを自身で表現することができている。困難な場合は利用者の表情や動きが、意志を訴える手段であると捉え、行動を促す言葉かけを行い、その反応を職員で協議したり、家族の意見を聞いて、本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や馴染みの暮らし方等の把握を行った上でサービスを提供している。入所後もご家族様より以前の様子等を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に日頃の過ごし方や心身の状態等を確認し、職員同士で共有し、ご利用者様の気持ちに添ったケアを提供出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様に今の現状や今後の生活の希望等を伺い、職員間でも状態の把握や日頃の様子等について話し合いプランに反映させている。	入所時に本人家族から要望を聞き、在宅時の介護担当者や医師の意見を参考に、1ヶ月の試行介護計画を立てている。問題がなければそのまま定期検討会まで維持し、問題があれば関係者の意見を聞き、随時見直しをかけ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々気付いた事を介護記録やチェック表、申し送りノートなどに記録し、その活用により情報を共有している。記録された内容はカンファレンスを行いケアの改善や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の心身の状況を常に把握し、変化がみられた時はその都度話し合いながら柔軟にサービスの提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅に帰りたいと願望のあるご利用者様には、自宅まで一緒に行き、近所の方とお話しをしてもらうことで、安心していただいている。又、地域の体操や習字の会等に参加出来る様ご家族様等と協力し継続して利用して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定はご利用者様とご家族様に相談しながら行っている。受診に関してもお互いに連絡を取りながらご家族様と情報を共有している。	入所前にかかりつけ医の継続受診が基本であることを説明している。ほぼ全員が家族対応でかかりつけ医での受診を行っている。家族が遠方で対応できない場合は事業所が受診を支援している。結果は家族、事業所双方とも報告し合い、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいないが常に異常の発見に努め、状態の変化等あれば速やかに協力病院に相談し、指示を仰いだり受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い出来るだけ早期に退院できるよう病院関係者へ相談している。又、病状の把握をし、入院が長期になる場合は家族とも話し合い、退院後の方向性についてもご家族様も交えて話し合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についてご家族様に契約時に説明し、入所後も状態に合わせて話し合いをしている。その中で事業所として出来ることや今後の方向性についても理解して頂きながらケアに取り組んでいる。	利用者、家族には契約時に重度化した場合の対応について、事業所が出来ること出来ないことを説明している。医療行為が必要な場合は入院し、その後の後の対応について家族と再度協議し、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時にすぐ救急隊に渡せるようにご利用者様ごとに個人情報をもとめた緊急時連絡票を作成している。又、事故発生時のマニュアルは目につくところに掲示し、事故等発生時に備えた、救命講習など法人内で研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い避難できる方法を身につけている。又、緊急連絡網も目に付くところに掲示しており、全職員が把握している。	火災避難訓練は毎月行っている。夜間を想定し、その都度火元を変更し、それに対応した避難場所に避難している。目標は10分以内の避難完了で、このうち2回は消防署員立ち合いの訓練実施をしている。災害に備え、3日分の飲食物を備蓄し、1年で見直ししている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様が人生の先輩である事、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけをしながらケアを行うよう努めている。又、接遇等の勉強会を事業所内でも行い、言葉使いや声掛けの仕方等の向上を図っている。	利用者は人生の先輩であることを認識し丁寧語を使い、声掛けは名字や名前でもさん付けで対応している。誘導時は、どこで何をしたいか声掛けをして、と本人の意志を尊重する呼びかけを行っている。居室にはノックをしてから入室し、用件を伝えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者様の想いを受け止め、出来る限り気持ちに添った対応が出来るよう、日々耳を傾けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望やペース、その日の状態等を把握した上で、ご本人様の希望に添ったサービスの提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容が必要な場合は、ご家族様に連絡をした上で、馴染みのお店を利用して頂いている。又、更衣の際にはご利用者様本人に好きな服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態を考慮しながら声掛けを行い、野菜の皮むきや茶碗拭き等の出来る事を行って頂き、ご自分の役割や出来る事への自信につながるよう支援している。	メニューは夜勤者が利用者の希望を参考に作っている。おやつはホットケーキなど甘味を提供している。利用者はジャガイモや人参の皮むき、テーブル拭き、後片付けなど楽しい食事になるよう手伝っている。花見や紅葉狩りの機会には外食を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や病状等に合わせて、水分や食事内容量の変更などを行っている。又、チェックシートに記録し1日の摂取量を把握し、必要時は主治医やご家族に相談や報告をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きができる方には行って頂き、難しい方には一部介助や声掛けを行い、出来る部分をご自分で出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄能力に合わせた支援を行っている。困難な方には難しい部分のみ介助や声掛けを行い出来る事が継続できるよう支援している。	利用者がトイレで排泄することを目標に支援している。一人ひとりのデータを参考にタイミングを計ったり、食事やおやつ、入浴などの前に誘導し、利用者が失敗したと思わないよう心がけている。利用者に会え汗、パットの大きさを検討しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が減少しないよう配慮し、飲みたくない方や、量が一度に摂取できないご利用者様には、小分けに提供している。又、便通に良い食事の提供や、排便の間隔を把握し、必要に応じてかかりつけ医にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務体制に遅番勤務を設けることで幅広い時間帯での入浴支援を行っている。又、ご利用者様の希望に添って入浴の回数も決めている。	毎日入浴が出来るように支援している。毎日入浴と1番にお風呂に入りたい希望者が多く、交替で順番を決めながら入浴している。ゆず湯や入浴剤も使用し喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣に合わせた声掛けを行い、休んで頂いている。又、安眠できるように、不安事に対する心のケアにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時のかかりつけ医からのお話やお薬の内容等を受診記録ノートに記載し職員間で共有している。又、副作用等についても確認しておき、ご家族やかかりつけ医に相談や報告を行い、早期対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	献立を立てたり、日常のお手伝いをして頂いた時には、感謝の言葉を伝えている。出来る事から行って頂き、役割や生きがいにつながるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や体調を考慮した上で、散歩等を行っている。苑外活動はご利用者様の希望を考慮し計画を立てている。	週2～3回、近くの公園まで少人数や全員で散歩している。利用者によっては衣料品の買い物や趣味の健康体操教室に通ったり、家族の協力で外泊するなど外出している。桜やあやめ、花菖蒲などの花見や紅葉狩り、地域のまつり見学などの外出も企画支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はご家族様よりお預かりし施設の金庫で管理している。個人的な衣類等は、ご利用者様と一緒に買いに行き預り金から支払っている。購入を記録し月に一度ご家族様に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもご家族様等に電話ができるよう声掛けしている。又、ご自分でお話しがうまく伝えられないご利用者様には職員が電話でお話ししながら、ご家族様とお話しが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、飾りなど季節を感じられるよう工夫している。又、適切な室温等を心掛け、ご利用者様が不快にならないよう配慮している。壁には外出した際や行事の写真を掲示し皆様に楽しんで頂いている。	共用空間はエアコンや加湿器を使用し、室内の温度を冬は22度、と利用者が過ごしやすい環境にしている。壁に季節行事や外出時の写真を展示し、季節の花なども飾り、利用者が居心地良い雰囲気づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはコタツ、ホールにはソファ、食堂にはカウンター席を設けて自由にどこでも過ごして頂けるようにしている。居室が好きなご利用者様には、1人で過ごす時間を大切にしているが、引きこもってしまわないよう声をかけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご本人様、ご家族様と相談し、自宅で使用していたものやご家族様等の写真を置いたり、希望を伺いながら居心地が良く生活できるよう努めている。	利用者は座り機の家具、テレビ、ラジオなどの電化製品、ぬいぐるみなどを持ち込み、家族写真を飾るなど自分好みの部屋づくりを行っている。ラジオを聞きながら日記を書いたり、洗濯物を畳んだり、携帯電話で家族と日常の出来事を語り合うなど居心地良い生活に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやソファの位置など、ご利用者様が自立した生活が出来るよう工夫している。建物内はバリアフリーになっており、安全な環境を提供している。		